

○今回は、30日の表彰式での話を載せます。

今日は、市総合体育大会を中心に表彰を行いました。

壇上で賞状を渡すことができたのは、17の個人、団体でしたが、表彰の対象となった個人や団体は、のべ40以上となります。

市総合体育大会の選手壮行会では、「甲府西中ここにあり」を示してきてほしいと話しましたが、表彰を受けた人たちは、その成績、結果で、示してくれたと思います。

私も市総体の当日は、各試合会場をまわりましたが、どの部も、懸命に戦う姿や大会運営の補助などの裏方の仕事をこなす姿で「甲府西中ここにあり」を示してくれていたと思いました。

さいわい、本校の運動部は、すべて、県総合体育大会への出場が決まりましたので、残り3週間、最後の調整をして悔いのない戦いをしてきてほしいと思っています。

さて、今日は、県総体を迎える選手の皆さんはもとより、西中の全ての皆さんに、「負ける」という経験の意味についての話をしたいと思います。

スポーツの試合を例に話をしますが、スポーツの試合には「勝ち負け」はつきものです。

皆さんは、**勝つことを目指して練習し試合に臨むのですが、一方で、現実には、「負ける経験」は避けられません。**

例として、高校野球を挙げます。全国に高校の野球部は1万チームほどあると言われていますが、その中で、負けないのは1チームだけです。

どういうことかという、どんなに強いチームも、トーナメント戦をやれば、県大会で一位になっても甲子園で1回戦か2回戦か準決勝か決勝で負けるわけです。

1万チームのうち、最後まで負けないのは優勝する1チームだけで、残りの9,999チームは「負けた」ということです。

そう考えると、スポーツも含め、競い合いは、「勝つ」ことを目的に日頃から練習をするのだけれども、結果的には「負ける」経験をするためにもある、と私は思っています。だからこそ、「負け」を大事にしてほしいのです。

一生懸命、練習してきた人ほど、悔しいでしょうし、勝ち進んだチームほどダメージは大きいかもしれませんが、だからこそ「負け」から学ぶべきことがたくさんあると思います。

県総体を控えている皆さんにとっては、「負け」の原因を分析し、県総体に備えることが、まずは、「負けを生かす」ということになると思います。

さらに一歩進めると、テストや日々の学習、或いは個人的にやっている「習い事」などでも、思うような結果が出ずに、悔しい思いや失敗をすることがあると思います。

これも、ある意味で「負け」の経験と考えれば、その「負け」を振り返り、「何が足りなかったのか」や「あの場面でどうしていればもっとよかったのだろう」と考え、次の行動に生かすことで、自分の成長につなげることができるのではないかと思います。

そういう私自身も、失敗やうまくいかないことはこれまでもたくさんありましたし、今もありますが、その時には、「この失敗を意味あるものにしよう」と自分を元気づけるようにしています。

少し大きな話になってしまいましたが、西中の皆さんには、自分の決めた目標に向かって一杯頑張るとともに、結果としての「負け」や「うまくいかない経験」をしても（その直後は落ち込んでよいと思いますが）、そこで止まらずに、「負けや悔しい経験を糧に成長するぞ」という、強くて、しなやかな心を持ってほしいと思って、今日の話をしました。

一人でも多くの方が、「そうだよな」と共感してくれれば嬉しく思います。